

今、あなたの目の前に一つのサラダボウルがあります。好きな野菜を好きなだけ加えてください。そのサラダは、ちゃんと混ざり合っていますか。

人種のサラダボウル。これは様々な人種が混在しているアメリカ社会を表すスラングです。人種をサラダの野菜に例えて、それぞれの個性を持った人々が共存する多様性の世界を表しています。しかし、実際の世の中のボウルはどうでしょうか。ある特定の野菜が排除されたり、中には自分の味が出せずに輝いていないような状況が多く存在しています。

今年の冬、私達の学年は修学旅行で北海道を訪れました。柔らかくて真っ白な雪に触れ、楽しんで一方で、北海道の苦しい歴史についても事前に学習しました。周知の通り、北海道や千島列島、樺太地方では、古来からアイヌ民族が住んでいました。そして、鎌倉時代以降から移住してきた和人や、江戸時代以降の松前藩から差別されるようになります。アイヌ人である、それだけで、不利な条件で貿易を進められたり、文化を否定され、日本に同化させられたりしました。

そんな歴史を頭の片隅に留めながら、修学旅行当日、私達はアイヌ文化の博物館であるウポポイという施設を訪れました、アイヌの言葉や、食文化、生活や遊びも、その文化全てが新しく知るものでした。そして、印象的だったのは、その施設がとても新しかったことです。それもそのはず、建てられたのは4年前です。そういえば、アイヌの差別を失くし、文化を継承しようとする法律が施行されたのも、5年前です。

これは、どういうことでしょうか。昔から続いている差別問題が、未だに解決していないんです。法律や、なくそうなくそうという呼び掛けが存在しながらも、まだ無くなりません。

では、私達が何をすれば解決するのでしょうか。それは、「相手についてよく知る事」そして「偏見や先入観をもたない事」等とよく言われますが、それだけでは足りません。アイヌ民族のように、自分たちの近くに住んでいて、自分たちのことをよく知っている人から差別されてきたという事実があるからです。

それよりもまず必要なのは、相手に対して敬意を持つことだと私は考えます。今、友達や家族、目上の人から後輩まで、敬意を持った行動ができていますか？別に、皆に敬語を使えと言ってる訳ではありません。1人の大切な、価値のある人間として意識することだと思います。自分の好みや考えと違うからといって、否定したり、見下したり、排除したりするのではなく、価値のある人間として大切にするんです。そうすれば、人と人の間に優劣なんて生まれません。ましてや、いじめや差別なんて起こりませんでした。されて嬉しい行動をし、ありがとう、ごめんを当たり前のように言う。それだけでいいんです。幸いなことに、私の身の回りには、人のことを大切にしてくれる人がたくさんいます。普段の何気ない会話の中にも、根底には丁寧さがあって、お互いにポジティブな感情しか生まれません。そんな自分を大切にしてくれる人が周りになると、自分の個性を安心して出せるから、輝くことができるんです。

世の中には、本当に色々な人がいて、これから出会う人が皆自分と気が合う訳ではないでしょう。価値観や、家庭環境、能力、見た目、センスなど、自分は周りの皆と違うと思って孤独を感じたり、自信を無くしてしまったことがあるかもしれません。逆に、自分がどうしても理解できない人への対応で悩んだり、優しく出来ずに葛藤したことがあるかもしれません。でも、世の中は、色々な個性を持った人が集まり、輝くことのできるサラダボウルです。そこには貴方も私も入っています。そのサラダを美味しく輝かせるために忘れてはいけないドレッシングがあります。それは、すべての人に対する敬意です。